

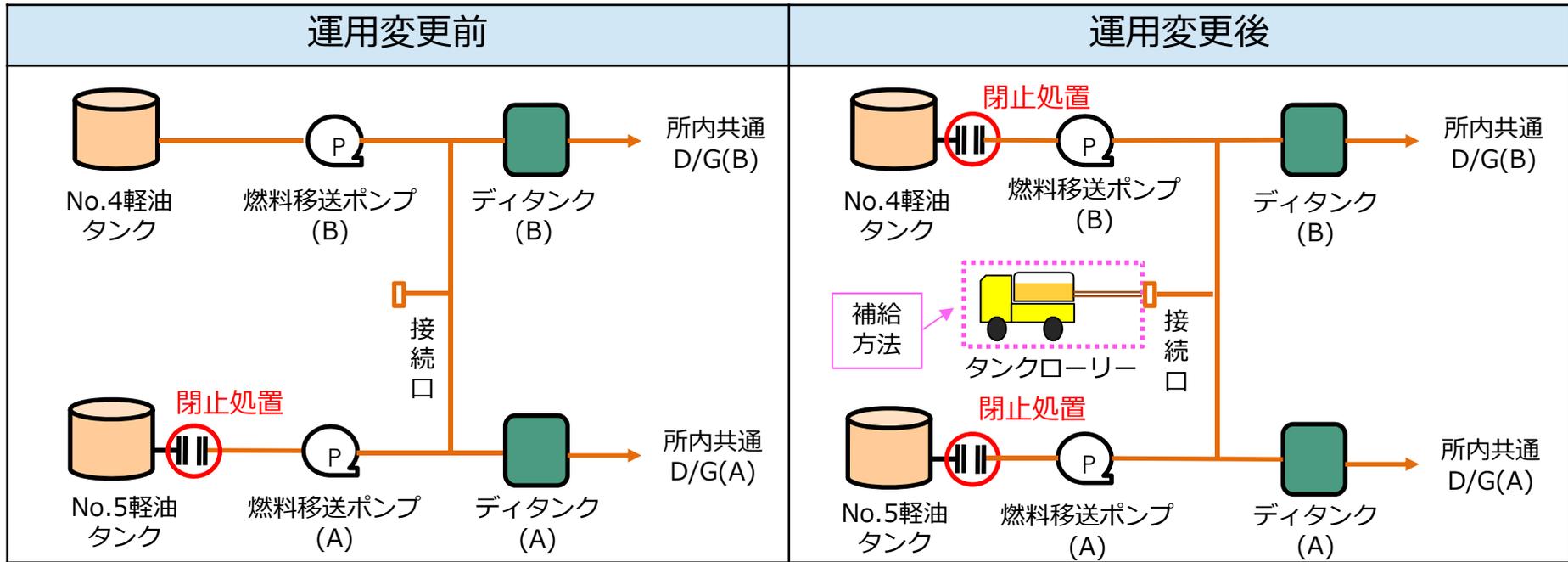
福島第一原子力発電所 所内共通ディーゼル発電機への軽油補給運用の変更

< 参考資料 >
2025年5月21日
東京電力ホールディングス株式会社
福島第一廃炉推進カンパニー

- 福島第一原子力発電所においては、所内共通ディーゼル発電機(以下DG)を設置しています。当該DGについては燃料に軽油を使用しており、No.4およびNo.5軽油タンクから補給しておりました。
- No.5軽油タンクについては、2024年6月の測定において、消防法令上の保安点検が必要な傾斜量の基準値※1を超えていたことから、当該タンクの抜油を実施し、使用を停止しておりました。
- DGへの軽油補給については、No.4軽油タンクからの補給に切り替えておりましたが、2025年5月19日の点検においてNo.5軽油タンク同様に傾斜量の基準値を超えていたことから、No.4軽油タンクの使用を停止することとしました。
- No.4およびNo.5軽油タンクの使用停止に伴い、本日、当該DGの既設のディタンク※2へタンクローリーから軽油を直接補給する方法に運用を変更しました。なお、運用変更後も、DG自体の機能・性能に影響はありません。
- 今後とも、安全を最優先に発電所運営を進めてまいります。

※1消防法令上の保安点検が必要な傾斜量の基準値：50分の1（2%）

※2ディタンク：軽油タンクから燃料の供給を受け、DG機関に燃料を供給するタンク



<凡例>

— : 既設配管

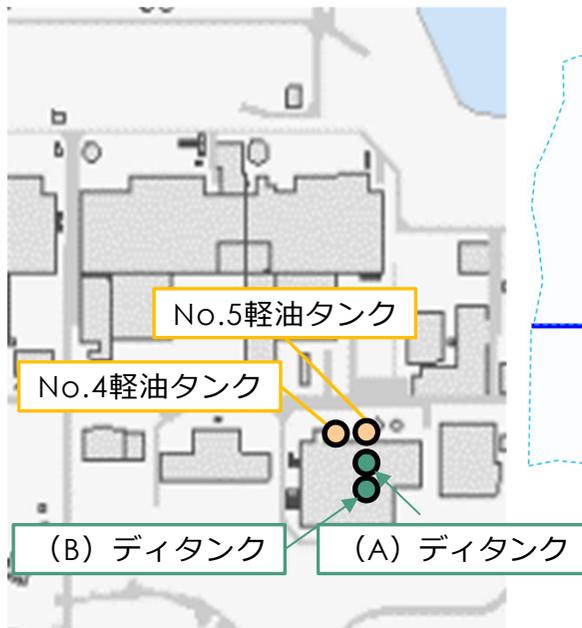
— : 耐油ホース

|| : 閉止板

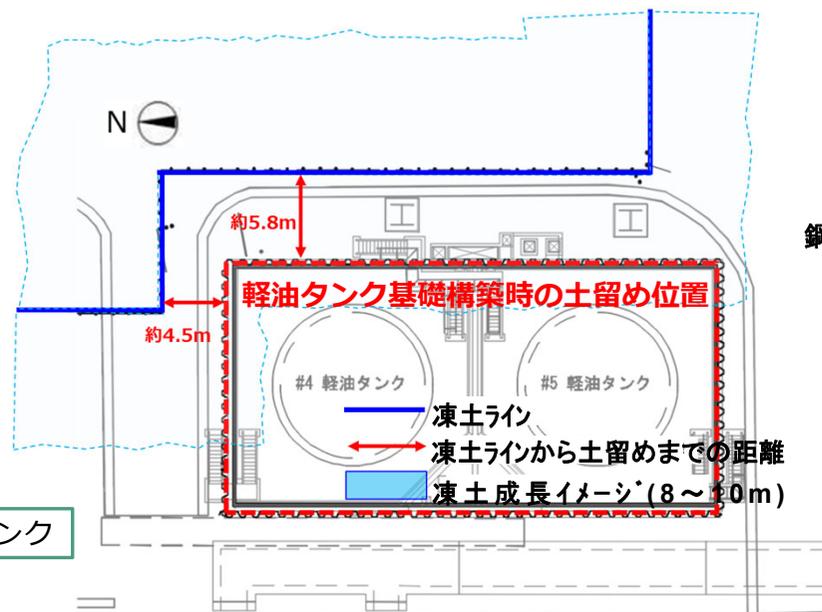
【参考】 燃料用軽油タンクの傾斜原因調査

- No.4およびNo.5軽油タンクは、建設ときに、地盤改良および鋼矢板を施工しており、その近傍に陸側遮水壁が構築されるなど、周辺と比較して、複雑な地盤の状況となっております。そこで、2024年9月から2025年3月にかけて、地盤強度および地中温度を確認しました。
- 調査の結果、地盤強度に問題は確認されず、また、地中温度は、軽油タンク基礎の深部で0℃未満となっていることが確認されました。
- これらのことから、軽油タンク傾斜の原因として、地中深部で凍結した土壌が、地盤改良や鋼矢板の影響で、タンク基礎部を不均質に押し上げた可能性が考えられます。
- なお、1～4号機タービン建屋および原子炉建屋周辺の諸設備については、定期的な点検により、廃炉作業や運用に支障をきたすような状態でないことを確認しています。

位置図



軽油タンクと推定凍土範囲
(平面)



軽油タンクと推定凍土範囲
(断面)

